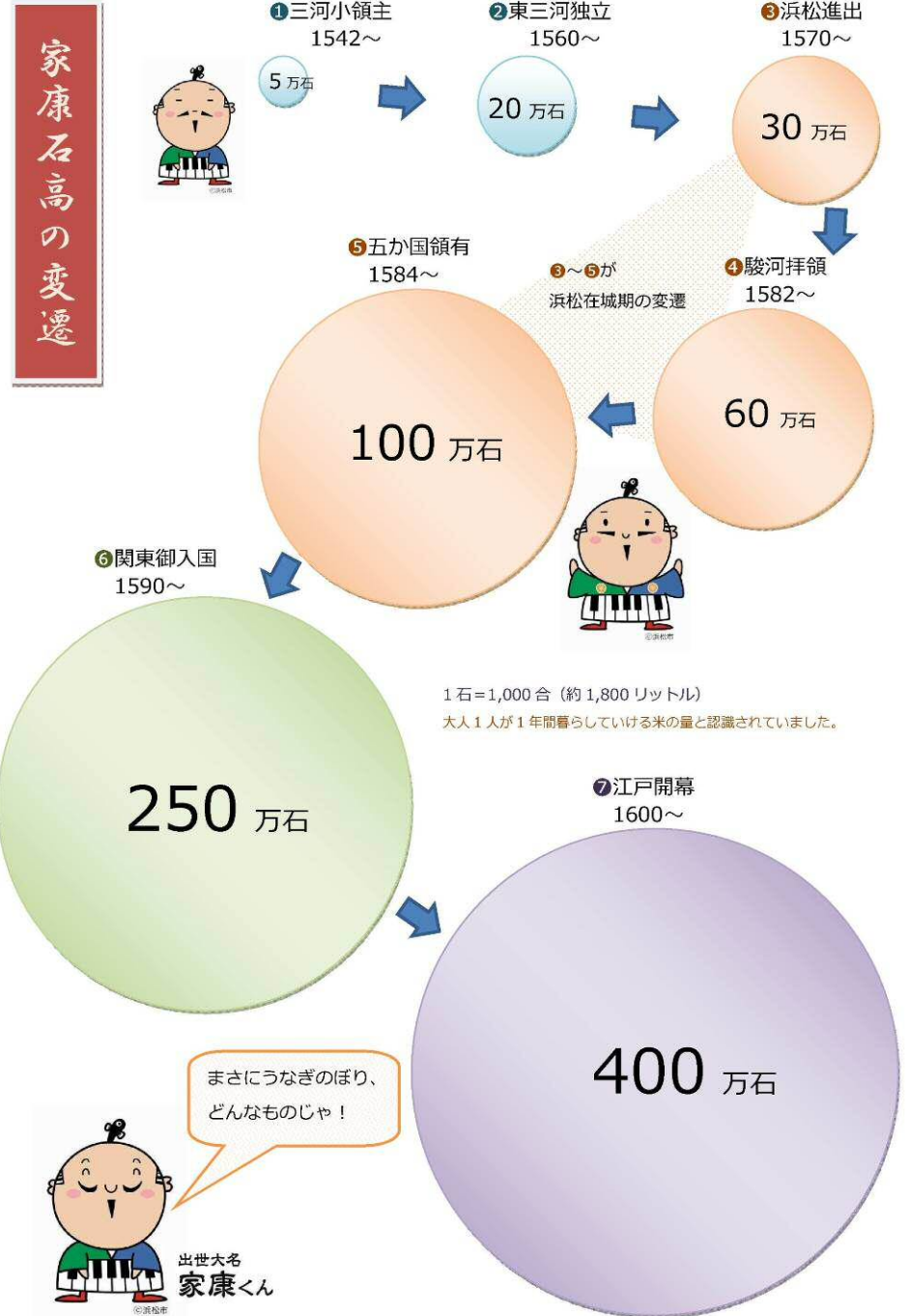




徳川家康の生涯と居住地の移り変わり

年代	年齢	できごと	居住地	年代	年齢	できごと	居住地
1542 (天文 11)	1	松平広忠の長男として三河岡崎城に生まれる。	岡崎	1582 (天正 10)	41	信長が本能寺で憤死、堺から伊賀越えて岡崎に帰還。	浜松
1547 (天文 16)	6	今川義元の人質となるところを捕らえられ、織田信秀の人質となる。	名古屋	1584 (天正 12)	43	織田信雄について小牧・長久手で豊臣秀吉と戦う。このころまでに信濃を含め五カ国領有の大名となる。二男秀康を秀吉の養子にさしだす。	
1549 (天文 18)	8	父広忠が暗殺される。今川軍が織田信広を生け捕り、人質交換によって岡崎で躰参を果たすが今川家の人質となる。	駿府	1585 (天正 13)	44	石川数正が出奔し秀吉に仕える。	
1555 (弘治元)	14	今川義元の下で元服し、松平元信を名乗る。		1586 (天正 14)	45	秀吉の妹旭姫を正室とし大政所を送られ、臣下となる。	
1558 (永禄元)	17	このころ、名を松平元康と改める。		1586 (天正 14)	45	居城を今川館のあった駿府に移す。	
1560 (永禄 3)	19	今川軍として桶狭間へ参戦、義元の敗死を知り、岡崎城への帰還を果たす。岡崎城主として独立する。	岡崎	1590 (天正 18)	49	小田原攻めの後、秀吉から関東移封を命じられる。浜松には秀吉の重臣・堀尾常吉晴が入城する。	江戸
1562 (永禄 5)	21	織田信長と同盟を結ぶ。		1592 (天正 20)	51	秀吉による朝鮮出兵で肥前名護屋城まで出陣する。	(伏見) (大坂)
1563 (永禄 6)	22	松平家康と改名し、今川の「元」の字を捨てる。		1598 (慶長 3)	57	秀吉死去。五大老の筆頭として実権をにぎる。	
1564 (永禄 7)	23	三河国をほぼ平定する。	江戸	1600 (慶長 5)	59	関ヶ原の戦いで石田三成の西軍に勝利する。	
1566 (永禄 9)	25	徳川家康と改姓する。(天下攘り志向のはじまり)		1603 (慶長 8)	62	征夷大将軍となり、江戸に幕府をひらく。	
1569 (永禄 12)	28	武田信玄と呼応して今川領に侵攻、遠江を押さえる。		1605 (慶長 10)	64	秀忠に將軍職を譲り、徳川家が世襲することを示す。	
1570 (元亀元)	29	浜松に居城を移し、遠江の領国支配をはじめめる。	浜松	1607 (慶長 12)	66	駿府城を修築して居城とし、大御所と呼ばれる。	駿府
1572 (元亀 3)	31	武田信玄の遠江侵攻に抵抗するが、三方ヶ原の合戦で大敗する。		1611 (慶長 16)	70	上洛にあわせ、二条城に豊臣秀頼を迎えて謁見する。	
1575 (天正 3)	33	織田・徳川連合軍が長篠で武田勝頼軍に勝利する。		1614 (慶長 19)	73	豊臣秀頼討伐として大坂に出陣(大坂冬の陣)。	
1579 (天正 7)	38	長男信康を自害させ、正室築山殿を殺害する。		1615 (元和元)	74	再度大坂に出陣し、豊臣氏を滅ぼす(夏の陣)。	
1582 (天正 10)	41	武田氏を滅亡させ、信長から駿河国を与えられる。		1616 (元和 2)	75	駿府城にて病没、久能山に葬られる。	



## ■引馬城の沿革

鎌倉時代ころ、「ひきま（ひくま）」という都市が成立しました。現在の馬込川は当時、天竜川の本流でずいぶん川幅も広がったようです。当時の東海道がこの川を渡る西岸に発達した町屋が「ひきま」です。浜松八幡宮の門前から南西に続く自然堤防上に発達した市場と宿場町を中心とし、「船越」や「早馬」はこの頃に始まる地名です。田町の分器稲荷は、「ひきま」宿の南の分木（境界杭）に当たると推定します。当時の東海道は江戸時代よりも北を通過していました。

なお、古文書にある「ひきま（ひくま）」の表記は、引間・引馬・匹馬・疋馬・牽馬・引駒などがあって安定していません。また、現在の中区曳馬地区とは直接関わりがありません。ここでは、仮に「引馬」と表記しておくことにします。

戦国時代、この都市の権益に注目した人物が宿を見下ろす丘の上に引馬城を築きました。駿河の今川氏と三河・尾張の斯波氏らとの抗争の中で、双方の戦略上の拠点となっていました。歴代の城主の中には、斯波方の巨海氏・大河内氏、今川方の飯尾氏などの名前も見えます。この時代の引馬城は、後に「古城」と呼ばれた部分で、徳川家康が最初に居城としたのもこの城です。元龜三年(1572)、武田信玄との三方ヶ原合戦でも「玄黙（元目）口」という城門が舞台となりましたから、引馬城は家康の時代も浜松城の主要部分だったことがわかります。

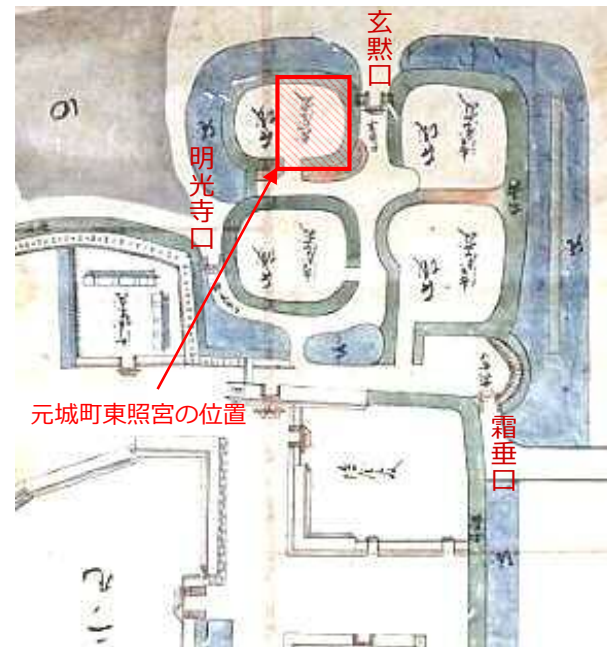
その後、城主となった豊臣系の堀尾吉晴以降、さらに浜松城の増改築が進み、引馬城は城の主要部から外れ、「古城」と呼ばれるようになりました。ただ、家康が居城としていたことは重んじられて、当時の本丸跡には米蔵という大切な施設が置かれていました。明治維新を向えて城内は民間に払い下げとなりました。

旧幕臣で、後政府役人として静岡県に赴任した井上延陵（八郎）は、当時の浜松の産業振興にさまざまに尽力した人物ですが、家康ゆかりの地・浜松に東照宮が無いことを憂い、浜松城内の地を選定して元城町東照宮を造営しました。この東照宮は戦災で焼失し、周囲の樹木も失われました。現在の社殿は、昭和 35 年に再建完成したものです。なお、東照宮境内の西側は、戦後の区画整理に合わせて削平され、36m道路に沿った宅地になっています。したがって、引馬城跡本丸のうち西側三分の一ほどは、現在失われているものと推測しています。

元城町東照宮は、現在、元城町の氏神として管理されています。



昭和 34 年(1959)、現在の元城町東照宮社殿建設に際して、境内から出土した常滑焼陶器片とかわらけ（素焼きの皿）  
15 世紀後半、今川時代のもの。



江戸時代の浜松城絵図に見える「古城」付近

### ■主旨

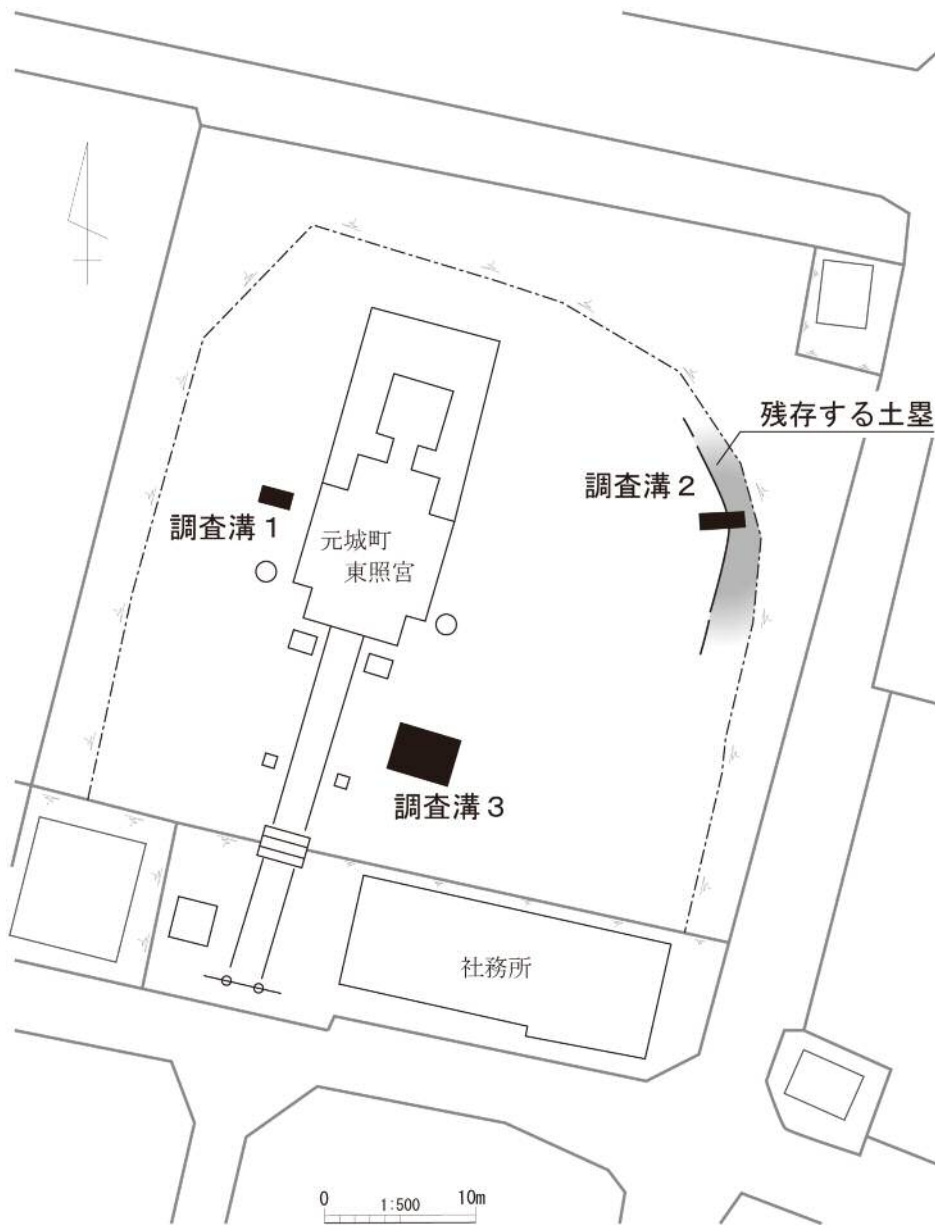
徳川家康が元和二年(1616)に没してから、まもなく 400 年の遠忌がめぐってきます (2015 年)。この年に向け、岡崎・浜松・静岡など家康との関わりが深い都市で、さまざまな再顕彰事業を計画しています。浜松市文化財課では、青年時代の家康が浜松での居城とした引馬城（古城）を一部発掘調査することで、確かな証拠を得たいと考えました。また、引馬城には、家康以前・今川の時代に頭陀寺城の松下之綱に伴われた少年時代の豊臣秀吉が登城したと伝わり、戦国時代の二大天下人にかかわるこの城の特色を明らかにしたいと考えました。

### ■調査

今回の調査は、元城町東照宮・元城町自治会ほか関係者のご協力をいただき、境内の一部を試掘して地下に当時の遺構があるのか確かめたものです。調査終了後には原状に復します。

### ★注意（お願い）

神社境内という神聖な場所です。樹木を痛めたり、勝手に地面を掘ったりすることのないようにご見学をお願いいたします。



引馬城跡の調査区配置

#### ■調査溝 1 の調査成果

小さく割れた「かわらけ」が数多く出土しました。地中には戦国時代以降の遺物が数多く埋もれていることが確認できました。



遺物検出状況（調査溝 1）

#### ■調査溝 2 の調査成果

調査前、東照宮北東隅には土塁と想定される地形の高まりが確認できました。その地点において発掘調査を行い、土塁が良好に遺存していることを確認しました。



土塁検出状況（調査溝 2）

#### ■調査溝 3 の調査成果

上層からは、戦前の東照宮に葺かれていたと想定される瓦が多数出土したほか、戦国時代以降の「かわらけ」や陶器が数多く出土しました。

下層では、江戸時代以前の遺物のみを含む土層が確認できました。また、遺構が良好に遺存していることが確認できました。



遺構検出状況（調査溝 3）

#### ■調査成果のまとめ

- ①引馬城の遺構や遺物が現存することを確認できました。
- ②古文書や絵図から推定されていたように、「古城」と呼ばれる部分が城跡であったことが確認できました。